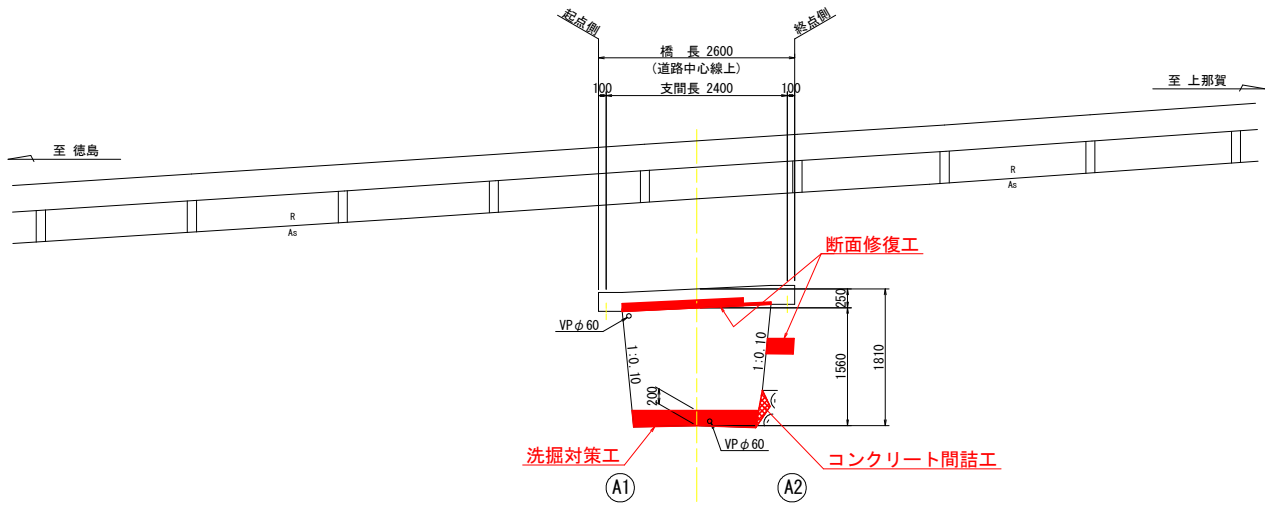
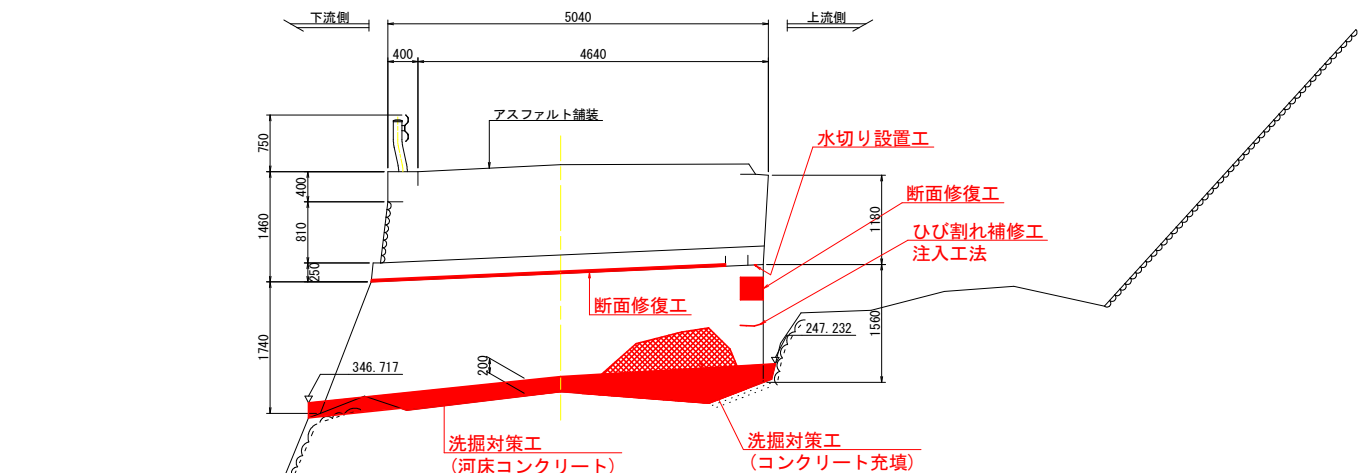


菅蔵橋 補修計画一般図 S=1:50

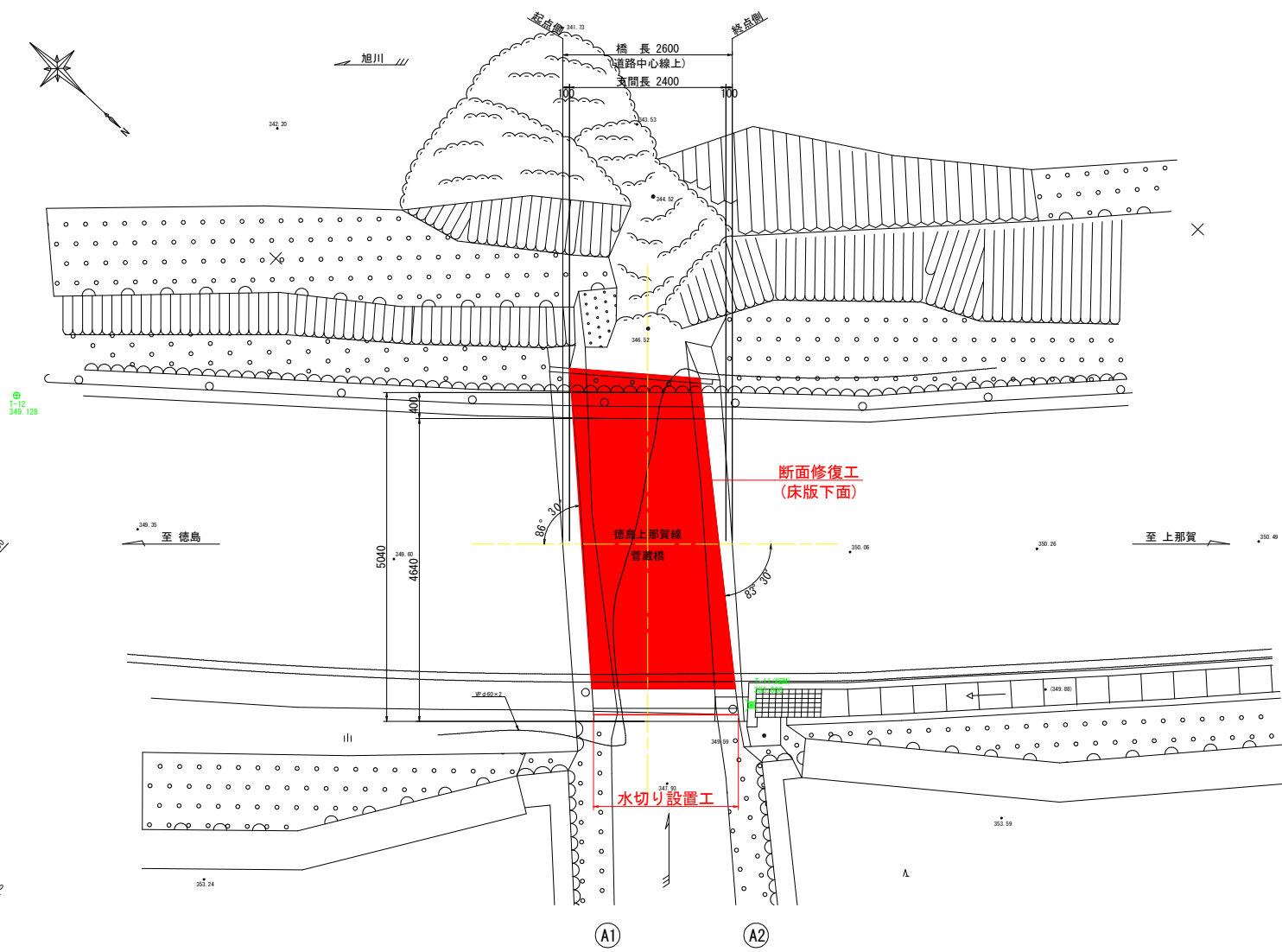
側面図



断面図



平面図



菅蔵橋 補修工事内容一覧

工 種	仕 様
断面修復工	ポリマーセメントモルタル
ひび割れ補修工	エポキシ樹脂低圧注入、可とう性エポキシ樹脂充填
水切り設置工	あと施工型(軟質PVC)
洗掘対策工	河床コンクリート、コンクリート充填

注記)
1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 寸法は、現場実測後決定する。

【実施設計図面】

工 事 名	R 8 徳土 徳島上那賀線 (菅蔵橋) 上勝・旭 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	勝浦郡上勝町旭 (菅蔵橋)		
図 面 名	菅蔵橋 補修計画一般図		
縮 尺	S=1:50	図面番号	1 / 6
年 度	令和 8 年度		
事業者名	徳島県土整備事務所		

斜 角 (θ=86° 30')



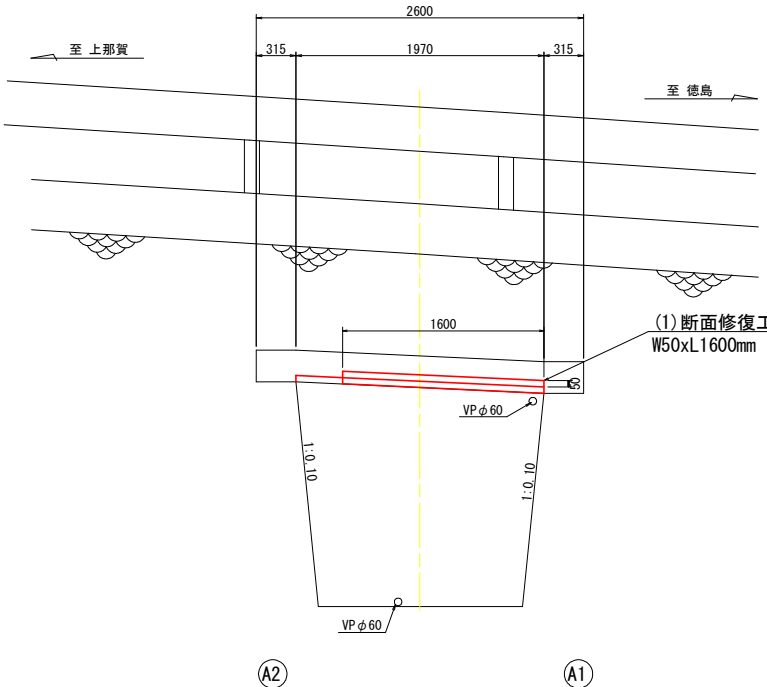
斜 角 (θ=83° 30')



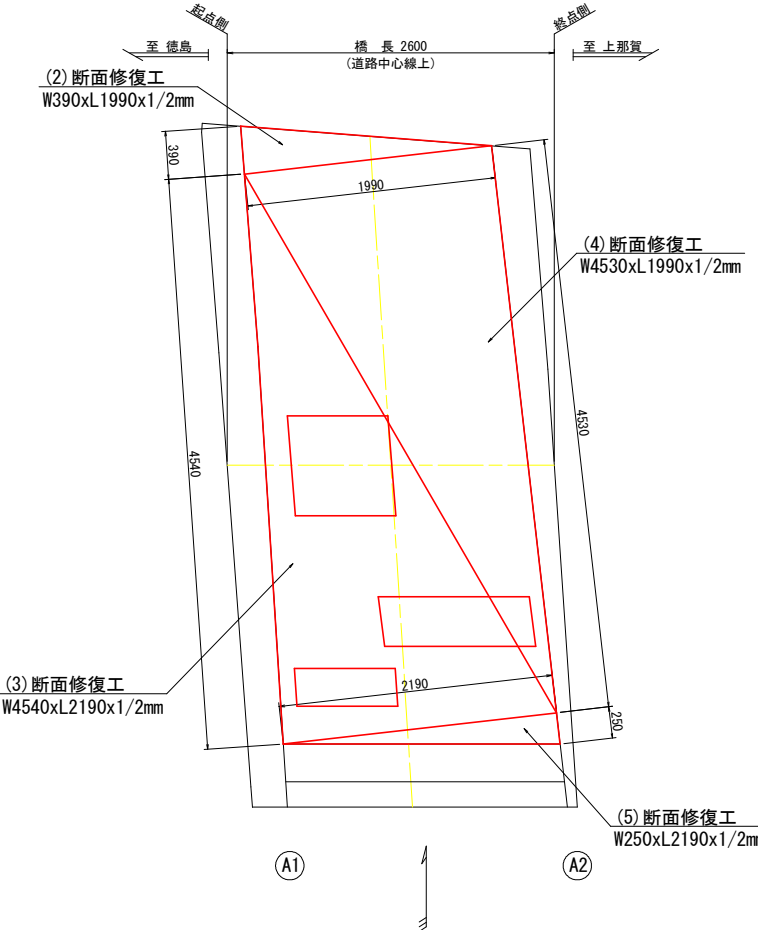
菅蔵橋 補修工詳細図(1/3)

上部工 補修図

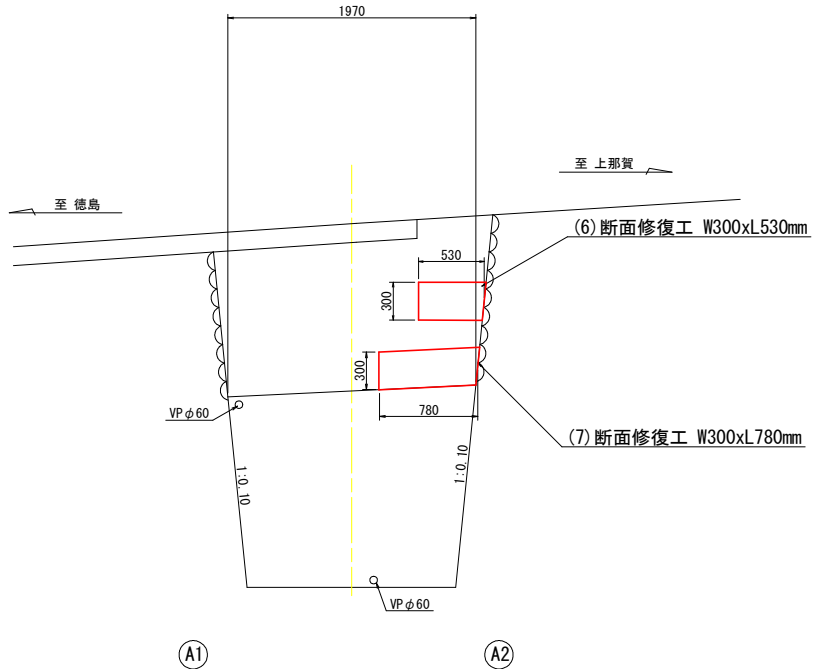
下流側側面図 S=1:30



床版下面(平面図) S=1:3

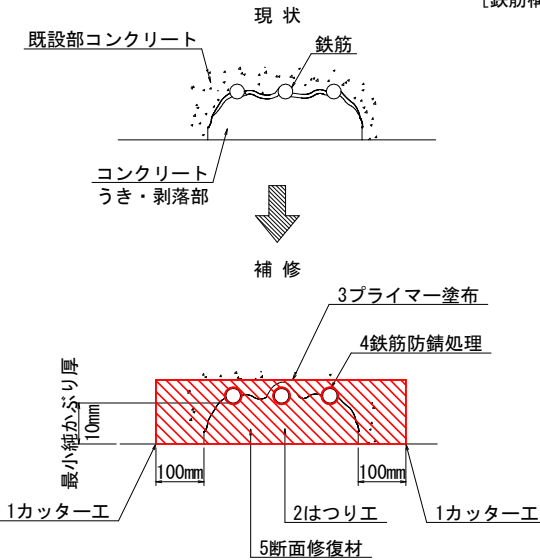


上流側側面図 S=1:30



断面修復工

[鉄筋構造物：左官工法]



断面修復材量Vは下式より算出する。

$$V = W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$$

ここに,

V :断面修復材量

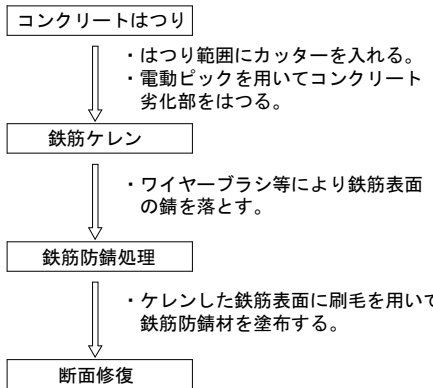
W :修復幅

L : 修復長

t : 修復厚

1.18 : ロス率

施工フロー図



- 1) 亜硫酸ナトリウムを混合したポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20～30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいくように、特に急に埋め戻す必要がある。
- 4) 断面修復厚は、各部位で設定している。

断面修復工(左官工法)

番号	幅 (m)	長さ (m)	厚さ (m)	数量 (m3)	備考
(1)	0.05	1.60	0.03	0.002	下流側側面
(2)	0.39	1.99	0.05	0.019	床版下面※
(3)	4.54	2.19	0.05	0.249	〃 ※
(4)	4.53	1.99	0.05	0.225	〃 ※
(5)	0.25	2.19	0.05	0.014	〃 ※
(6)	0.30	0.53	0.03	0.005	上流側側面
(7)	0.30	0.78	0.03	0.007	〃
			合計	0.521	

※は、 $A = \text{幅} \times \text{長さ} \times 1/2$

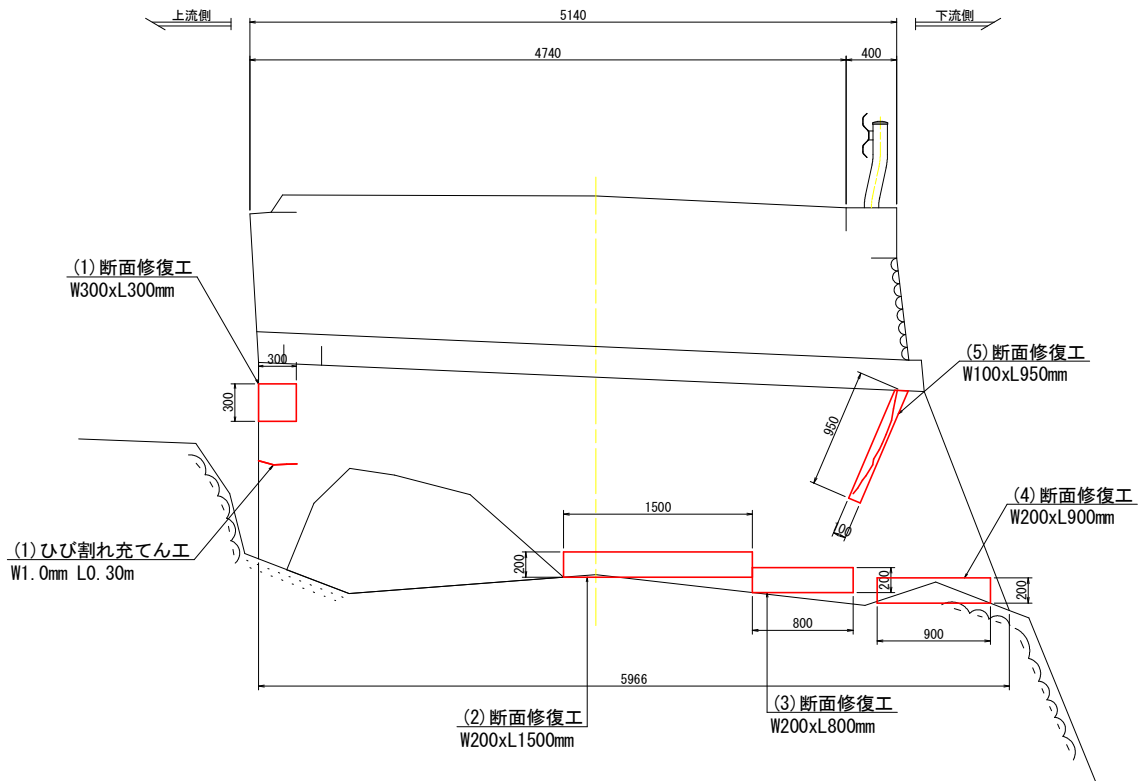
【実施設計図面】

工 事 名	R8 徳島 徳島上那賀線（管蔵橋） 上勝・旭 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	勝浦郡上勝町旭（管蔵橋）		
図 面 名	管蔵橋 修繕工事詳細図（1/3）		
縮 尺	図示	図面番号	2 / 6
年 度	令和8年度		
事業者名	徳島県土木整備事務所		

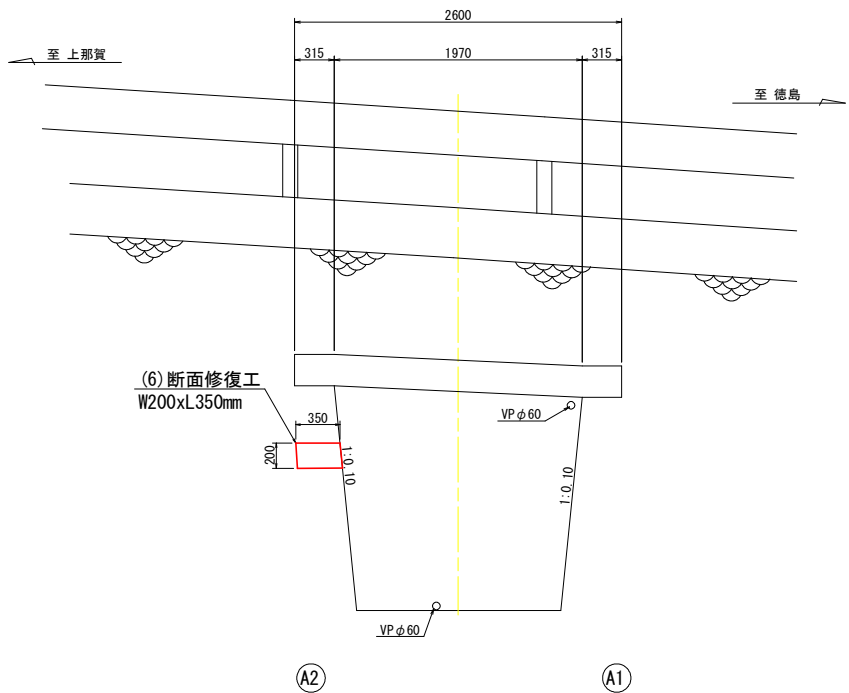
菅蔵橋 補修工詳細図 (2/3)

下部工 補修図 S=1:30

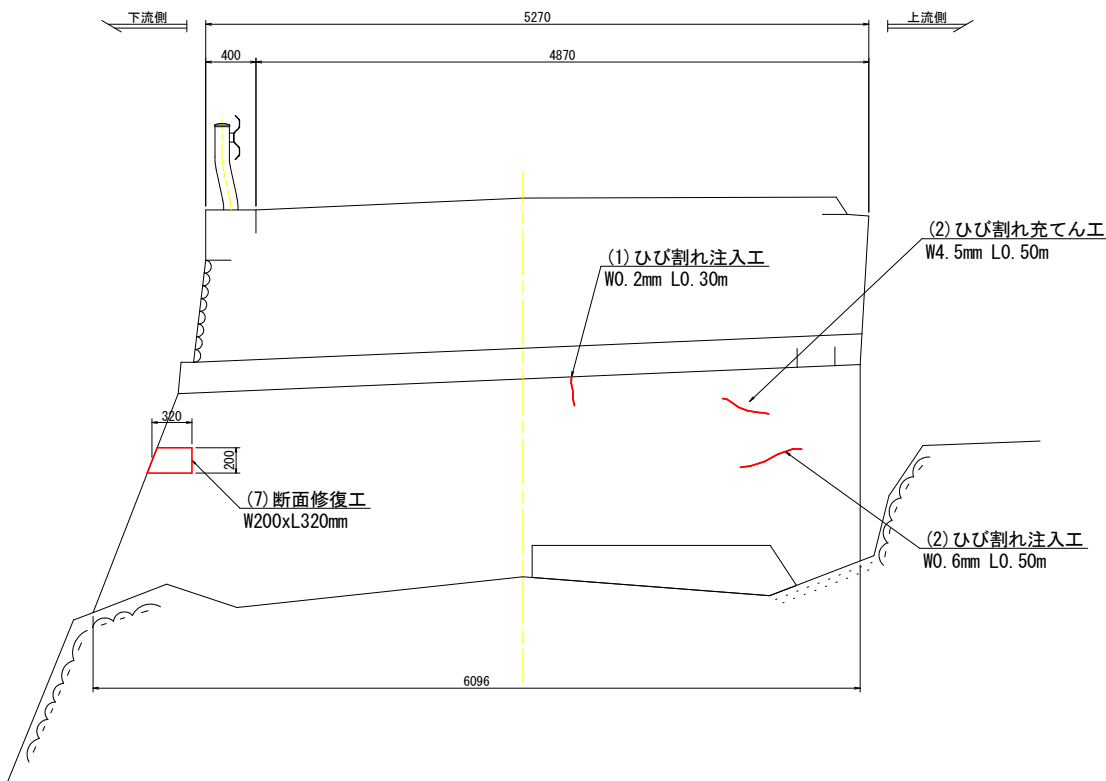
A1橋台正面図



下流側正面図



A2橋台正面図



ひび割れ補修工 (低圧注入工法)

番号	幅 (mm)	長さ (m)	深さ (m)	注入量 (kg)	備考
(1)	0.2	0.30	0.05	0.004	A2橋台
(2)	0.6	0.50	0.05	0.018	〃
合計				0.022	

ひび割れ補修工 (充填工法)

番号	幅 (mm)	長さ (m)	充填量 (kg/m3)	備考
(1)	1.00	0.30	0.045	A1橋台
(2)	4.50	0.50	0.075	A2橋台
合計			0.120	

断面修復工 (左官工法)

番号	幅 (m)	長さ (m)	厚さ (m)	数量 (m3)	備考
(1)	0.30	0.30	0.03	0.003	A1橋台
(2)	0.20	1.50	0.03	0.009	〃
(3)	0.20	0.80	0.03	0.005	〃
(4)	0.20	0.90	0.03	0.005	〃
(5)	0.10	0.95	0.03	0.003	〃
(6)	0.20	0.35	0.03	0.002	A2橋台
(7)	0.20	0.32	0.03	0.002	〃
合計				0.029	

【実施設計図面】

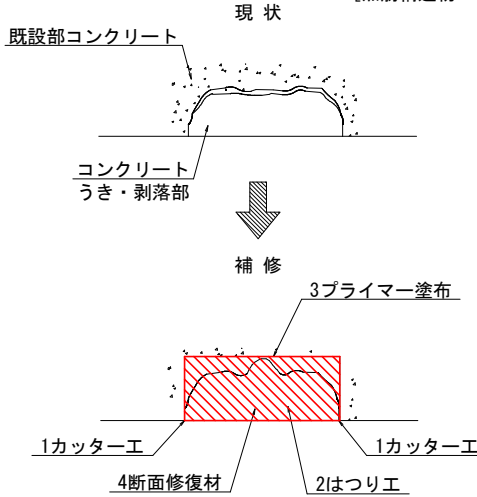
工事名	R8徳土 徳島上那賀線 (菅蔵橋) 上流・旭 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	勝浦郡上勝町旭 (菅蔵橋)		
図面名	菅蔵橋 補修工詳細図 (2/3)		
縮尺	S=1:30	図面番号	3 / 6
年度	令和8年度		
事業者名	徳島県土整備事務所		

菅蔵橋 補修工詳細図 (3/3)

補修工詳細図

断面修復工

[無筋構造物：左官工法]



施工フロー図

コンクリートはつり

- ・はつり範囲にカッターを入れる。
- ・電動ピックを用いてコンクリート劣化部をはつる。

プライマー塗布

- ・はつり面にプライマーを塗布する。

断面修復

- 1) ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20～30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 断面修復厚さは、各部材で設定している。

断面修復材量Vは下式より算出する。

$$V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$$

ここに、

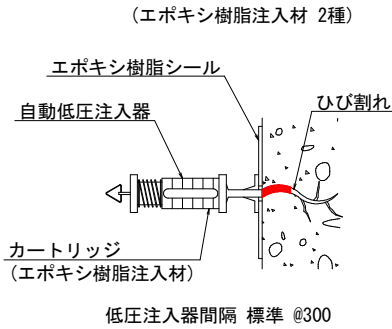
- V : 断面修復材量
- W : 修復幅
- L : 修復長
- t : 修復厚
- 1.18 : ロス率

注記)

1. 無筋構造物の断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
2. 修復厚さは、現橋調査結果より、下部工:30mm に設定している。
3. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
4. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

ひび割れ補修工

[低圧注入工法]



注入量Vは下式より算出する。

$$V=1200 \cdot b \cdot h \cdot L \cdot 1.20$$

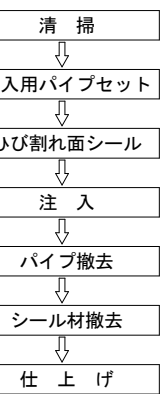
ここに、

- V : 注入量
- 1200 : エポキシ樹脂系注入材比重
- b : ひび割れ幅
- h : ひび割れ深さ
- L : ひび割れ延長
- 1.20 : ロス率

注記)

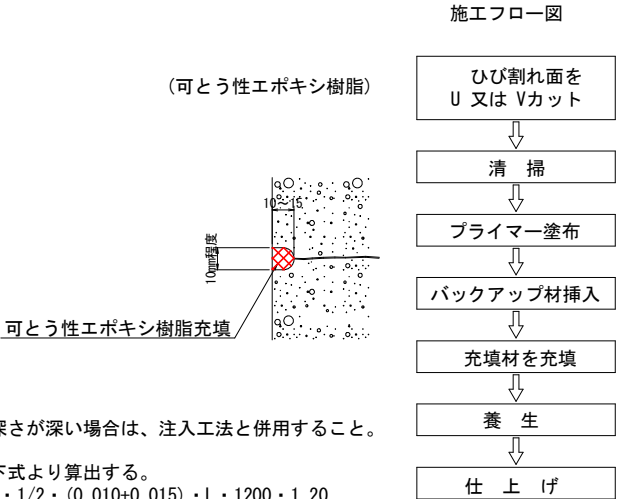
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行い決定すること。
2. 注入工法の注入材は、エポキシ樹脂注入材2種を基本とする。ただし、施工性等から材料、種別等を変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 注入深さは、50mmに設定している。
4. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

施工フロー図



ひび割れ補修工

[充てん工法]



注記)

ひび割れ深さが深い場合は、注入工法と併用すること。

充填量は下式より算出する。

$$V=0.010 \cdot 1/2 \cdot (0.010+0.015) \cdot L \cdot 1200 \cdot 1.20$$

ここに、

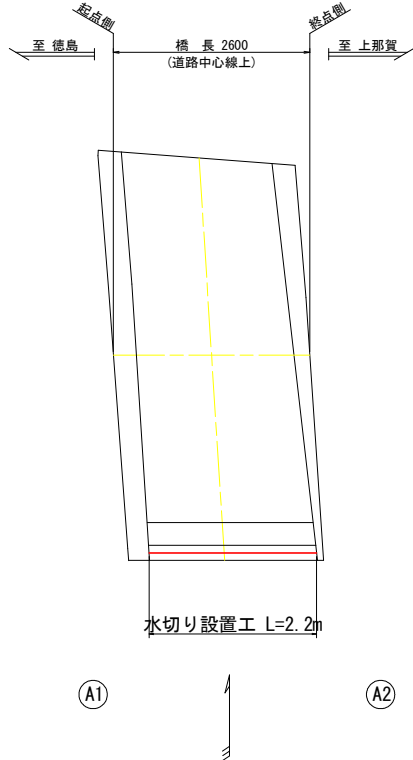
- V : 充填量
- 1200 : 可とう性エポキシ樹脂系充填材 比重 (kg/m3)
- L : ひび割れ延長
- 1.20 : ロス率

注記)

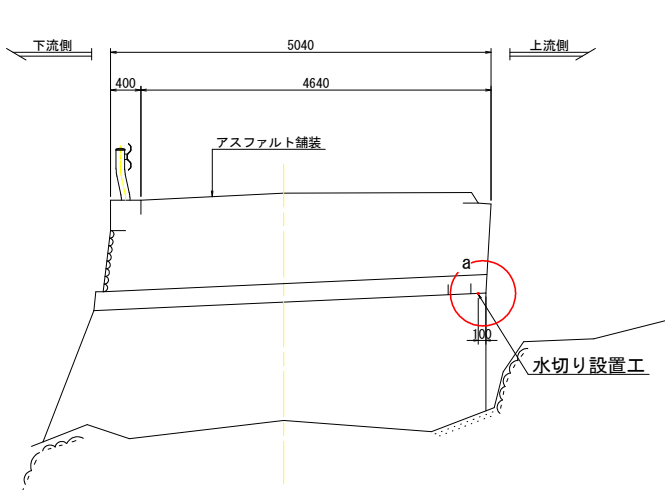
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 充填工法の充填材量は、可とう性エポキシ樹脂系充填材を標準としている。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

水切り設置工詳細図

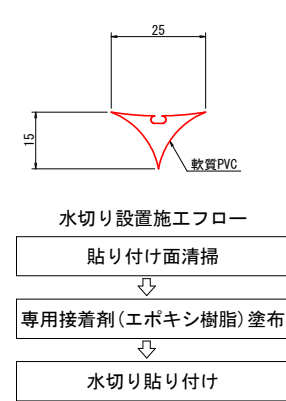
平面図 S=1:50



設置位置断面図 S=1:50



水切り詳細図(a部) S=1:1



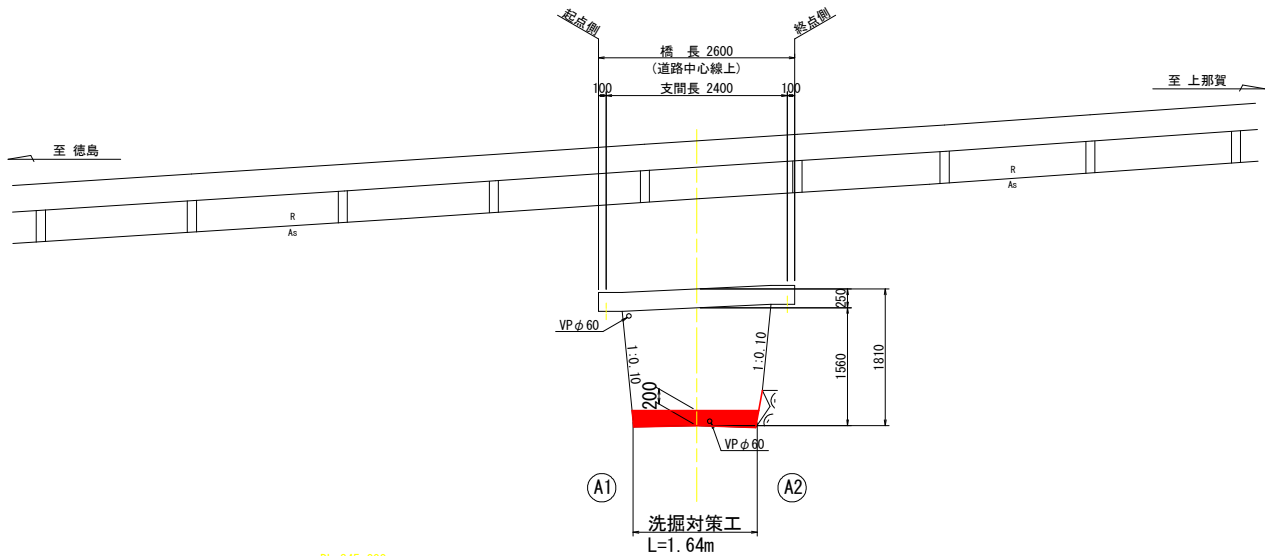
【実施設計図面】

工 事 名	R 8 徳土 徳島上那賀線 (菅蔵橋) 上勝・旭 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	勝浦郡上勝町旭 (菅蔵橋)		
図 面 名	菅蔵橋 補修工詳細図 (3/3)		
縮 尺	図示	図面番号	4 / 6
年 度	令和 8 年度		
事業者名	徳島県土整備事務所		

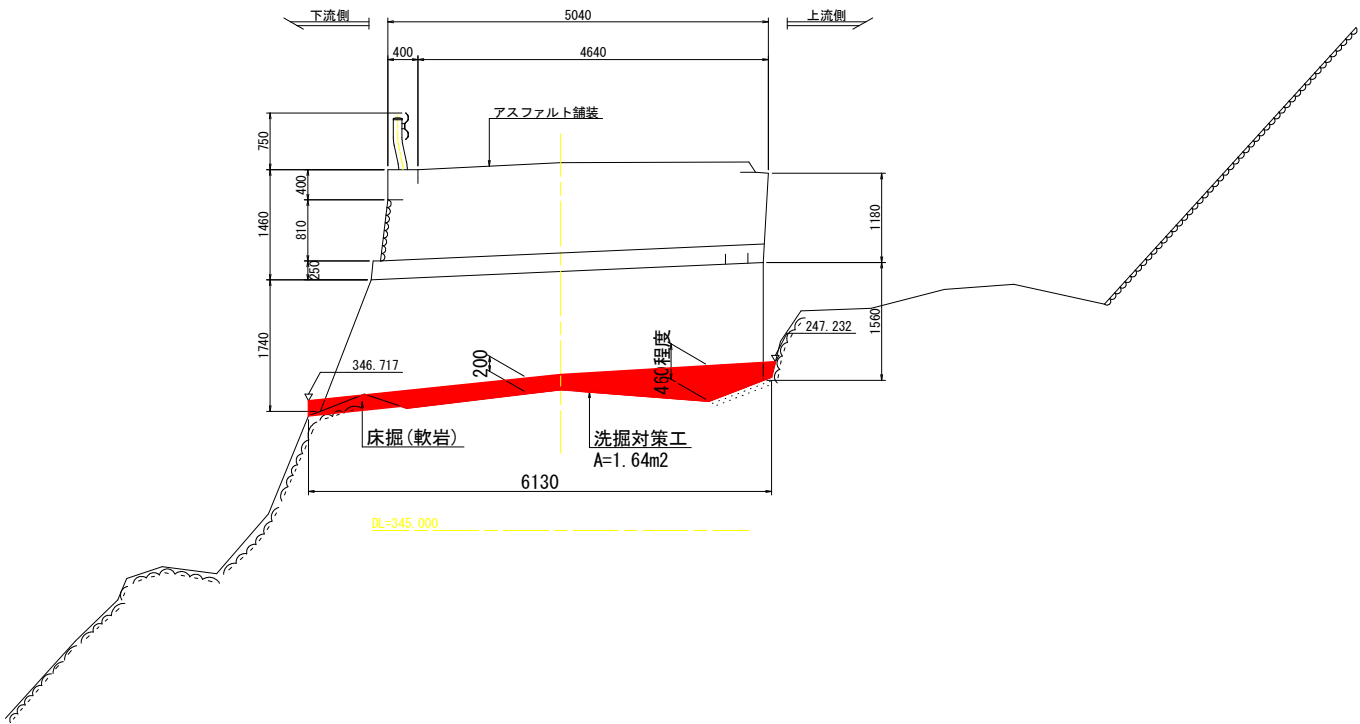
菅蔵橋 洗掘対策工詳細図(1/2) S=1:50

洗掘対策工詳細図

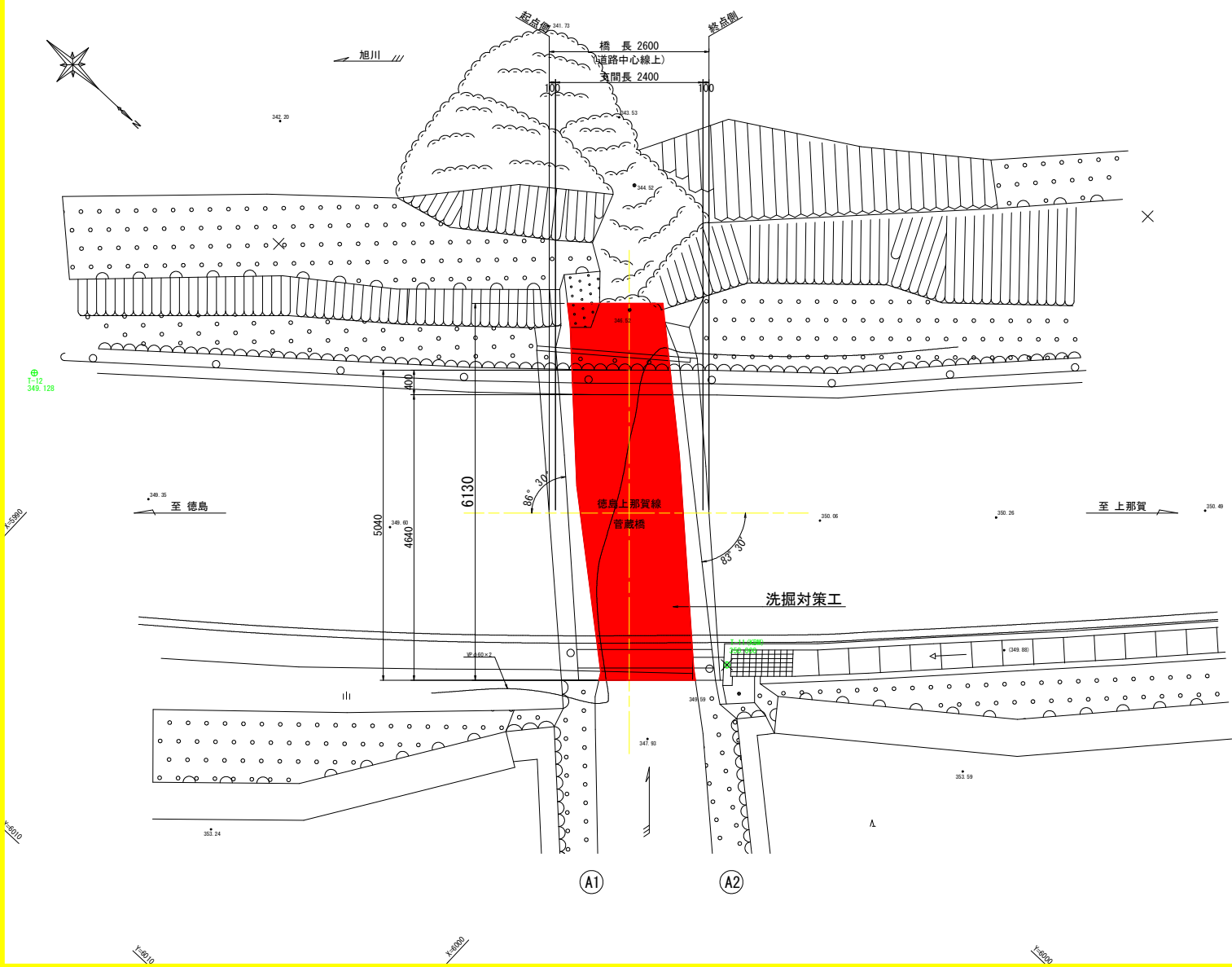
側面図



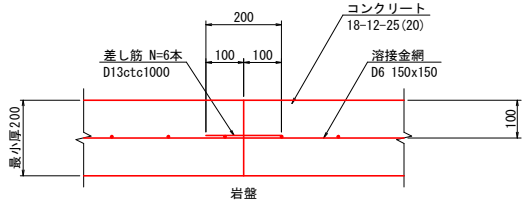
断面図



平面図



洗掘対策工構造図 S=1:10



- 注記)
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 2. 岩盤の表面に付着している苔等は清掃し除去すること。
また、表面の劣化が著しい箇所や浮きが見られる脆弱部は取り除くこと。
 3. 河床にパイプ(VP φ 60)が設置されているため、管理者を特定すると共に、パイプを傷つけないよう施工すること。
再設置場所については、発注者およびパイプ管理者と協議し決定のこと。
 4. 施工は、仮設管を設置し半施工を想定し計画している。

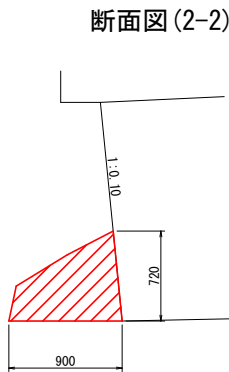
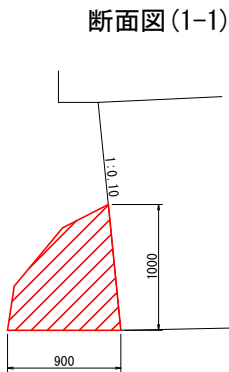
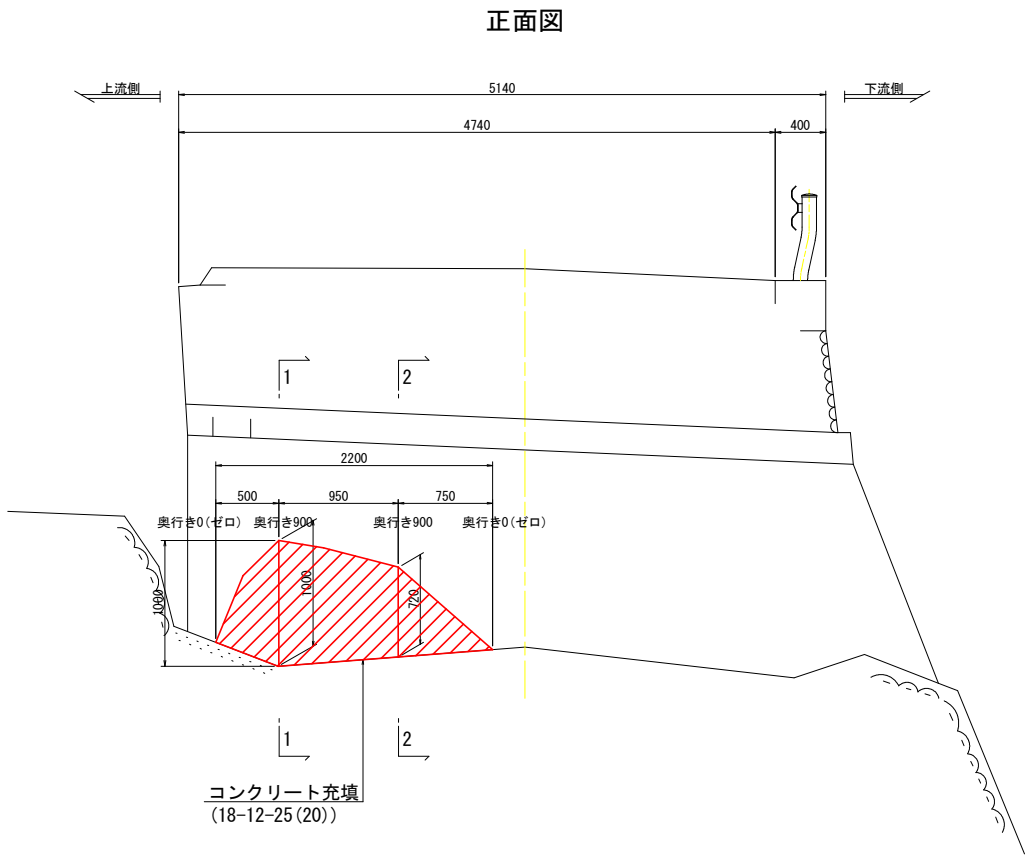
【実施設計図面】

工事名	R 8 徳島 徳島上那賀線 (菅蔵橋) 上勝・旭 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	勝浦郡上勝町旭 (菅蔵橋)		
図面名	菅蔵橋 洗掘対策工詳細図 (1/2)		
縮尺	S=1:50	図面番号	5 / 6
年度	令和 8 年度		
事業者名	徳島県土整備事務所		

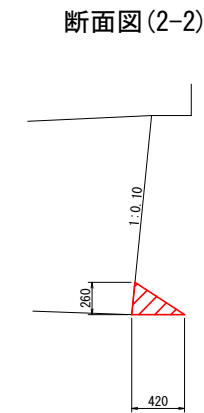
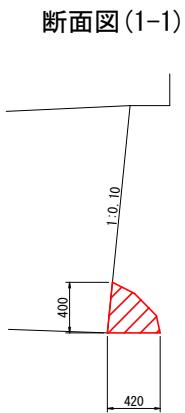
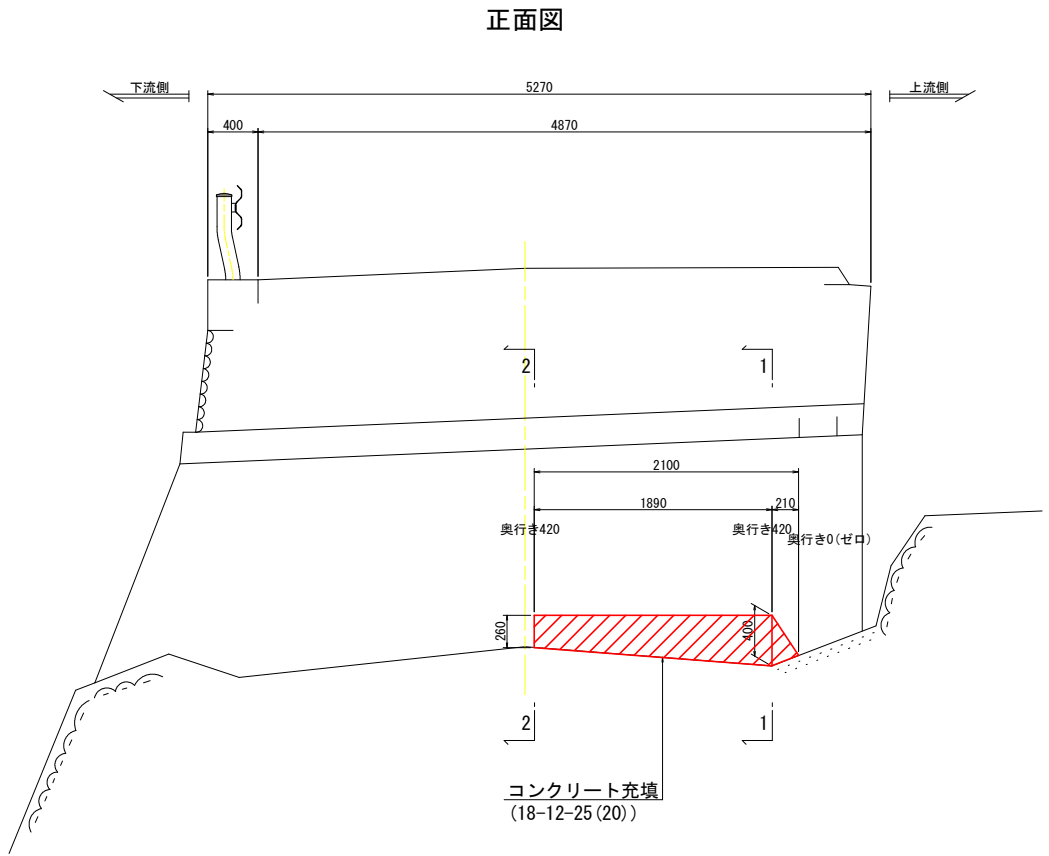
菅蔵橋 洗掘対策工詳細図(2/2) S=1:30

A1橋台コンクリート間詰工詳細図

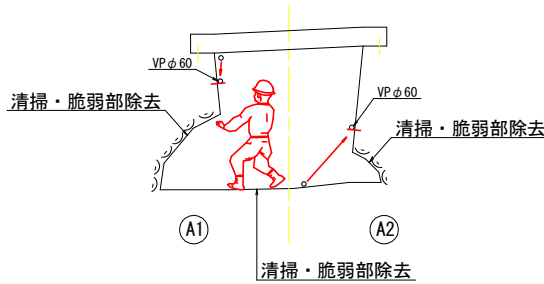
施工要領図(参考図) S=1:50



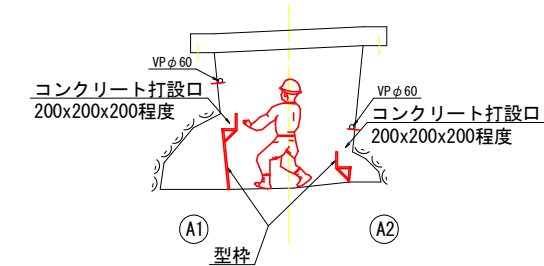
A2橋台コンクリート間詰工詳細図



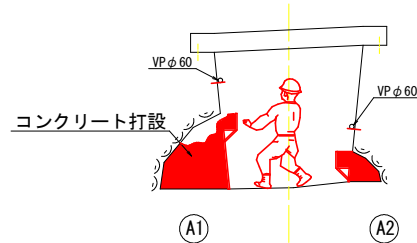
STEP. 1 : 河床の岩盤表面清掃
岩盤表面に付着している苔等の除去。
浮き等の脆弱部の除去。
パイプ(φ60)は施工に支障とならない位置へ仮配置



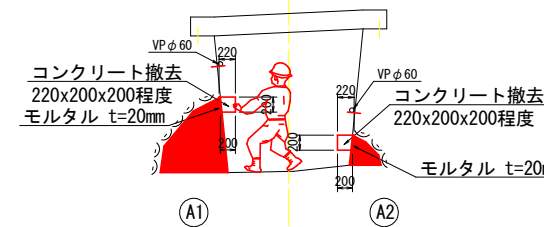
STEP. 2 : 型枠設置
橋台前面に型枠を設置。
コンクリート打設口(200x200x200程度)を設ける



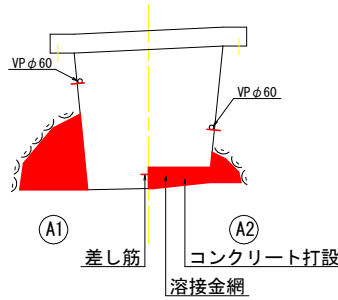
STEP. 3 : コンクリート打設・養生
橋台前面に型枠を設置。
コンクリート打設口(200x200x200程度)を設ける



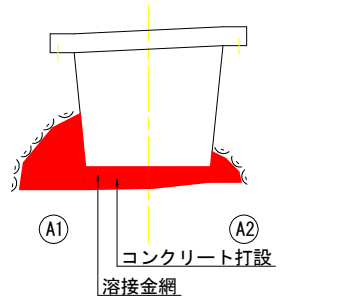
STEP. 4 : 脱型・コンクリート打設口撤去
脱型し、コンクリート投入口のコンクリートを撤去
コンクリート撤去面をモルタルにて整形



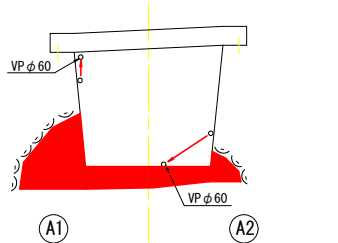
STEP. 5 : 河床部施工(半施工)
中央部の型枠を設置。
溶接金網を設置。
コンクリート打設。



STEP. 6 : 河床部施工(半施工)
溶接金網を設置。
コンクリート打設。



STEP. 6 : パイプ(φ60)復旧
パイプ(φ60)を原形復旧



【実施設計図面】

工 事 名 R 8 徳土 徳島上那賀線(菅蔵橋) 上勝・旭 橋梁修繕工事

路線名等 徳島上那賀線

工事箇所 勝浦郡上勝町旭(菅蔵橋)

図 面 名 菅蔵橋 洗掘対策工詳細図(2/2)

縮 尺 S=1:30 図面番号 6 / 6

年 度 令和8年度

事業者名 徳島県土整備事務所

【注記】

1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。

2. 岩盤の表面に付着している苔等は清掃し除去すること。

また、表面の劣化が著しい箇所や浮きが見られる脆弱部は取り除くこと。